

の多少等差違特長あり今日俄に統一する事は困難な事情にある、経費、其の他の準備を整へて活々と統一へ進行して行きた。

次に共済事業を行ふ支部は果鴨支部、牛込支部、下谷支部、神田支部、赤坂支部、淀橋支部、中野支部、麻布支部、品川支部、世田谷支部、亀戸支部、千住支部、浅草支部、寺島支部、麴町支部、京都中央支部、名古屋中央支部、貯金局支部、東工浪花芽場支部、東工下谷浅草支部、経理局製機支部、大森支部、東京鐵道郵便局支部、名古屋赤塚支部、等で共済資金最高は果鴨支部の八九〇圓〇である、各支部を通じて成績は概して良好である。

尙當該局内共助組合等に依り事實上支部が共済を行つて居る處もある。

**青年部 報告**

本會は多くの青年層を持つので、其の多くは有爲なる組合中堅として、組合事務に日常関与に奮闘して居る、此の一面本會の活潑なる行動をなし得た點であると信ずる。

青年部としては社會民衆黨青年部、労働總同盟青年部と協力し、青年同盟結成準備の爲めに努力し、組合内にも青年部としての差別待遇反對を闘ひ、或は多端なりし今年度中の幾多の闘争に其の前衛的活動を果した。

**政治部 報告**

今年度中に於ける政治部の記録は第一に西果鴨町に於ける町議戦を挙げねばならぬ。從來我等は選信當局の發したる政治的自由抑壓の反對を、大會決議を以つて、其の撤回方を再度選信省に交渉し、或は議會に於て其撤回をなすの幾分は緩和され来たつたのである。隔々今日西果鴨町議戦は、去るに反目的全自由を獲得すると共に、

つたのである、内外共に充實せる果鴨支部の堅強と、眞に無産黨勇士として、はづかしからぬ見解持出富田君を得た十一月七日本部に開かれた政治部會は、社會民衆黨候補として、選友最初の選挙戦を行ふ事を決定した。具體的運動は本部執行委員會統制の下に、「西果鴨町議戦準備委員會」を構成し全力的應援を集中する事とした。又十二月六日本部に開催した評議委員會も此の件に關し必勝を期して闘ふ事、各支部は政治基金を募集する事等の件を可決し、西果鴨町二六五の屋官選挙事務所は異狀の緊張を以つて此の選挙を闘つたのである。

定員三十三名の議立候補七十七名、開票の結果五位一〇二票で措敗した、而し敗れたりとは云へ、醜惡なるブル候補重圍の中に一〇二票の情票を得た事は町民大衆の選信従業員に與へた正しき政治的信頼の現れである、屋官朝君が大だ二十八歳の若き身を、我等が政治自由獲得の爲めに捧げての犠牲的闘争は偉大なる功績と云わねばならぬ。

西果鴨町議戦對策委員會現政治基金決算

収入 三八五、五八(全額寄附金)

支出 三八五、五八

一、選挙運動費 二七五、六〇

二、雜費 九〇、一七

三、積立(政治基金) 一九、八

(物品寄附は省略)

内譯

尙本選挙に於て選挙委員田中竹造君は開票當日心臓麻痺で急死され、屋官選挙事務所は手厚く君の葬儀を執行し生前の功に報ひた。(決算報告中雜費の高額なるは田中君見舞の支出を含むのである)。

政治部一般的方面としては、社會民衆黨を支持して、黨支部分會の政治日常闘争に参加し、凡ゆる機會を通じて社會民衆黨の政策綱領貫徹の爲めに闘つた。

**爭議部 報告**

本年度に於ける爭議は、戦線の擴大につれて、一部頑迷なる當局幹部の官僚的偏見に基くものと、削減豫算の一般從